

須坂学園構想基本方針（案）地域説明会 会議録

- 1 日 時：2025 年 7 月 29 日（火）19～21 時 20 分
- 2 対 象：第 4 ブロック
- 3 会 場：臥竜山公会堂
- 4 参加者：30 人
- 5 市教育委員会：
勝山教育長、中村教育次長、若林学校教育課長、安川係長、
後藤主任指導主事、北村指導主事、西原指導主事

◆参加者 ◇市教委

（1）小中一貫教育について

◆参加者 A

・1 点目、「小中一貫教育」が教育学界や教育行政の学会でどのように評価されているかについてです。市教委は、どのような調査を行い、どのような学会の意見や方針を参考にしましたか。

◇市教委

・文部科学省は、小中一貫教育の効果を紹介しており、文科省のエビデンスに基づいて行っています。教育のあり方検討会議と適正規模等審議会には、信州大学の先生に入っていると思います。

・早稲田大学の小林宏己教授は、小学校と中学校の連携一貫を推進し、9 年間の義務教育として再構築を図る取り組みは、日本の近未来に備え、地域にあるべき教育と文化の拠点を築き、持続可能な更新を図る未来づくりの一環となる、と述べています。これは北海道教育大学の義務教育学校が開設された際に寄せられた一文であり、このような視点で行われていることが 1 つのエビデンスになると考えます。

◆参加者 A

・小中一貫の学校を考えるならば、合わせて中高一貫の教育も考えるべきではないかと思えます。須坂創成が総合高校になるのであれば、中高一貫の方が子どもたちの成長や人間形成、多様な価値観の形成により適切な教育体制ができるのではないのでしょうか。

◇市教委

・県内にある中高一貫校を見ると、どこも進学に力を入れている学校が多く、住民の方々が中高一貫校に何を望んでいるのかが見えてきます。私たちは、須坂の子どもたちにはできるだけ同じような教育を受けさせたいと考えており、その中で中高一貫教育は市としては考えていません。

◆参加者 A

・私は正直、今年の長野県の義務教育の小学校の先生の採用試験問題を見る機会があり、驚きました。あまりにも程度が低い試験問題で、大きな問題があるのではないのでしょうか。もっと多様な知識や技能を持った先生を小学校に配置してほしいと思います。小中一貫で専門的な先生が小学校に来るのではなく、小学校の先生の資質を高めるために、勤務時間を減らし、実質的な研究や勉強ができるような環境を教育行政として保障してほしいと考えます。

◇市教委

小学校の先生方は全ての教科（英語、家庭科、音楽など一部を除き）を教えなければなりません。これは大変なことです。その中で学級担任制をとり、幼い子どもから中学校へ行くかなり大人になった子どもまでを育てるということは、それなりの高い力量と専門性を持っていると思っています。ですから、資質が低いとか高いとかいう比較ではなく、小学校も中学校も先生方の専門性をより高めていくサポートや新しい形が必要になるのではないのでしょうか。

◆参加者 A

・今回の構想案は2年から4年かかったと言われていますが、わずか数人の教育学界等のエリートの先生方が2、3年で作り上げたと感じています。今回の学校構想を巡っては、市民の様々な声を聞いたという形跡が全く見えません。今回の構想については、そのような点が反映されておらず、20年、30年、40年先にはもっと減る中で、中学校をどうするのか、地域づくりという面で教育行政として市長部局にきちんとした要求があっても良いのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

◇市教委

・これまでに市民の皆さんへのアンケート、子どもたちへの聞き取り、保護者や先生方へのアンケートの結果をこの中に反映させました。数人の専門家が集まって案を作っているというご指摘ですが、その案を作る前に審議会に諮問しています。その答申を踏まえてこの案を作成しました。決して市民の皆様の意見を聞かずにやっていたということではないということをご理解いただきたいと思います。

・須坂だけではなく、全国的に人口が減っている中で、30年先を見越してどうしたら良いのかを検討した上で、今回の学園構想を作成しました。

（2）アンケートと市民参加について

◆参加者 B

・検討会議や審議会では、小中一貫教育の議論は少なかったです。

・アンケートを見ると、保護者が優先して考えることという項目で「小中一貫教育を推進してほしい」という回答は一番少ないのです。もっと安心な学校やいじめをなくしてほしいといった項目が多く、小中一貫教育を保護者、教職員、子どもたちが希望しているのは本当に2、3%です。アンケートと言うならば、それについてどう考えているのか。

◇市教委

- ・小中一貫教育については、審議会の中で答申を作成するときに、きちんと委員の確認をとって答申がまとめられています。
- ・アンケートの都合の良いところだけ拾っているのではないかというご指摘ですが、「小中一貫教育」を選んだ方が少ないのは確かにその通りの数字かと思いますが、いじめや不安といった項目を選ぶ保護者が多いのは当然だと思います。そういった保護者が懸念する問題をどうやって解決していくかという1つの手段として、小中一貫教育を選ばせていただいたということもありますので、ご理解いただきたいと思います。

(3) 学園構想の趣旨と少子化への対応について

◆参加者 C

- ・教育のことを考えてくださり、全国レベルの教育を実現していこうとしているのかなと理解しました。例えば小中連携などは、先生方が実際にやり取りすれば今からでもできることなのではないかと感じました。数字などを挙げられていますが、やはりこの「学園構想」の最も核となる部分は、少子化になるから学校を減らすという趣旨なのかなと理解しました。
- ・このまま進んでいくと、人数が少なくなり2学級を維持できないようになるから、学校を減らすという趣旨なのでしょうか。その点はいかがでしょう。

◇市教委

- ・今でも小中連携はできるではないかというご指摘ですが、おっしゃる通り今でも小中連携は行っています。しかし、市内11の小学校のうち6つの小学校は、中学校に上がる時に2つの中学校に分かれてしまう状況の中では、なかなか小学校と中学校の連携が取りにくい場面があります。先生の交流や子どもの交流が2つの学校に分かれてしまうとやりにくい。それを、同じ小学校から同じ中学校に進学できるような形にしたいというのが、今回の学園構想の1つの考え方です。
- ・学校を減らすのが目的というよりも、子どもたちにこれから世界に羽ばたいていくための良い教育の場を提供したいというのが私たちの考え方です。この少子化問題は確かに大きいですが、学園構想には主に3つの目的があります。
 1. 小学校と中学校の繋がりを深めたい、接続を円滑にしたい。
 2. 子どもたちが様々な先生や友達と関わる機会を増やしたい。
 3. 教育内容の量と質を変化させたい。量を増やすということではなく、学びの幅を広げ、質を高めることを目指しています。
- ・仮に須坂市がこのまま学校数を維持した場合、1学年あたりの人数は22人ですが、学園構想により4校に再編した場合は60人になり、複数の学級を維持できます。このままの現状でいくことが教育環境として本当に子どものためになるのか、今考えていかなければならないと思います。

（４）単学級の課題と小中連携の効果について

◆参加者Ｃ

・１クラスになってしまった時の課題や、先生にどういう負担が来るのかについて、もう少し具体的に示していただけるともっと理解しやすくなると感じます。

◆参加者Ｈ

・小学校の先生の多くは自分の担任するクラスの全科目を担当します。週 29 コマあるうち、小学校の先生は 24 コマを受け持ち、空き時間はほとんどありません。休まなければならない時でも、担任しているクラスを見てくれる先生がいないという状況が生まれてしまいます。

・小学校では理科や音楽などの専科の先生を配置できる規模が望ましいとされています。基準では 6 学級で専科 1 人、14 学級で専科 2 人です。小山小学校の場合は 2 クラスずつあるので 12 学級プラス特別支援学級が 3 つあり、教員 15 人配置されています。

・中学校の場合は全ての教科で専科の教員を揃えられる規模が望ましいのですが、学級数で 1、2、3 年で 6 学級あって、専科 3 人を含めて 9 人の教員が配置されます。9 人いても全ての専門教科を教えられるかというと、数学の先生が 3 人揃ってしまう場合など、色々な状況があるので、教えられない教科が出てきてしまいます。

・小山小学校は現在平均 23～24 時間の授業が行われています。3 年生以上では教科担任制を導入し、小学校の先生は全科目を教えられますが、その中でさらに専門性の高い教科を持つ先生もいます。中野市の学校にいた時は小中学校が同じ学区にあるので連携がしやすく、3 クラスあった当時は先生たちの融通も効き、具合が悪い時でも他の先生が助け合うことができました。これは単級では難しいことです。単級の良い点もちろんありますが、それだけではうまくいかない部分があると感じています。

・少子化の中で、子ども第一に考え、公平に教育が受けられるような状況を作る必要があります。小学校の先生は子どもの内面を捉える力が高く、人格形成の基礎を支えています。中学校の先生も指導面で優れており、小中が一緒になることは子どもの成長に効果的です。

小中一貫校では連携がしやすく、先生同士の交流や助け合いも可能になります。単学級では難しい部分も、複数学級なら助け合えます。

（５）教員の配置基準について

◆参加者Ｄ

・現行の教職員配置基準を前提に計画が立てられていますが、今後国の方針で基準が変われば違う形もあり得るのではないかと感じます。

・例えば、小さな学校でも専科の先生を増やす方法としては、配置基準が変わって複数担任が認められてくれば、生徒数を増やさなくてもできることがあるのではないかと。

・経産省の方針で公用地を減らすという話も聞きました。そういうこともこの計画に影響しているのでしょうか。

◇市教委

・配置基準が変われば先生を増やせるのではというご指摘ですが、現状でも教員は足りない状況です。計画を立てるにあたり、現行の配置基準で考えざるを得ないことをご理解ください。

・空き校舎については地域と相談しながら活用を考えます。経産省からの指示で学校を減らすわけではなく、あくまで子どもたちの教育環境を良くするための構想を考えています。

(6) 地域を活かした学習、学園構想の住民理解について

◆参加者 E

・社会科では地域を学びますが、統合校に通うと地域性を生かした学習が難しくなるのではないかと。

・私は単学級の学校に勤務した経験がありますが、21～30 人程度は適正規模だと感じました。

・単学級には良さがあります。小学校 6 年間を通して、低学年が高学年に憧れる関係が重要だと考えています。

・思春期の中学 1～3 年生はあるときは、優しいお兄さんお姉さんとして接することができけれど、小学生とは生活や考え方が大きく違います。そのような中で多様な価値観を学ぶのは、人数だけで解決できるのかと疑問を感じています。結局は再編を『学園構想』と呼んでいるだけではないかという印象もあります。

・地域の学校が統合されることを、地域の人々は本当に理解しているのか疑問です。短期間で説明会を行い、すぐに方針を決定するのは拙速だと思います。

◇市教委

・単学級で担任 1 人が責任を負うのは大変です。2～3 クラスあると行事やクラスマッチなども充実します。先生にとっても子どもにとっても学びやすい環境になります。今のお子さんたちは運動会でも学年をまたいで活動しています。ですから生活の幅が狭くなっていることは仕方がないのですが、起きている現象です。確かに 1 学級で頑張っていますし、成果もあります。しかし全てが単学級になると学年運営が難しくなります。

・少子化が進む学校では先生方が非常に苦労しています。研究主任からのアンケートでも『限界』という言葉が出ています。これは忙しい、忙しくないということではなく、子どもたちに必要な環境を整えられないという意味です。子どもの教育をどう良くするかを出発点にしています。須坂全体を考えた時に将来どうするかを検討しなければなりません。その方法の一つとして今回の構想を提案しています。この提案を前向きに考えていただくことが教育委員会としての願いです。今後もパブリックコメント等で広く意見を伺いたいと思っています。

(7) 子どもの安全と健康について

◆参加者 F

- ・親はまず『安全に学校へ行けるか』『学校で安全に過ごせるか』を重視しています。階段の多い校舎でバリアフリーはどうなるのか。
- ・1年生から中学生まで体力差が大きい子どもたちが同じ校舎を使うと、禁止事項ばかり増えるのではないかと。計画を作る際にはぜひ安全や健康にも目を向けてほしい。
- ・今の子どもは体力が落ちています。これから国際的に勝負していくには体力と気力が必要です。

◇市教委

- ・子どもの安全は大前提です。学園構想案の中でも当然考慮されています。体力や視力の低下も大きな課題であり、解決策を模索していきます。
- ・校舎デザインについては参考例を示したただけですので、安全性を確保できるデザインを検討していきます。

(8) 社会教育による地域づくり等について

◆参加者 G

- ・第1に、皆さんは今の小山小学校の佇まいをどう感じているのか。
- ・第2に、『啐啄同時』という言葉をご存じですか。これは構想の進め方と関係しています。
- ・第3に、校長先生の立場についてです。教育委員会のオブザーバーなのか、住民の推進派代表なのか、曖昧です。今後も関わるなら明確にしていきたい。
- ・第4に、社会教育について。学校がなくなれば地域が廃れるのではないかと懸念について、社会教育の力で考えると答えているが、須坂の社会教育にその力があるのか疑問です。
- ・第5に、説明会の位置付けです。住民意見をどのように反映するのか。第2回の説明会や懇談会を開くのか。今後の進め方を伺いたい。

◇市教委

- ・小山小学校の姿について。私は素晴らしい学校だと思っています。研究にも取り組み、子どもたちも生き生きと学んでいます。
- ・『啐啄同時』という言葉は知っています。子どもを中心に考え、私たちはゼロから案を作るのではなく、過去4年間の検討、答申を尊重して住民説明会を行っています。意見は様々ですが、最も大事なのが『子どもにとって、このままの形で将来を迎えられるかどうか』です。全員の意見が一致するのは不可能ですが、子どもにとって良い未来を目指すことが必要です。
- ・校長先生の立場について。校長は学校運営の責任者であり、最も学校の実情を理解しています。教育委員会の側かどうかではなく、正確な情報を伝える役割を担っています。その点をご理解ください。
- ・社会教育や歴史的資源についてのご指摘は重く受け止めます。そのようなものを大切に

するためにも学園構想を考えています。校舎デザインや安全面などの課題は必ずあります。それを解決しながら、地域とともに次の段階で具体的なプランを作っていきたいと考えています。社会教育の力を借りて地域づくりをしていこうと申し上げました。全国的にも小学校がなくなった後の地域づくりは課題で、社会教育を活用している地域もあります。須坂にも地域公民館を中心に活動する方々がいて、力があると思います。

・今後の進め方としては、ブロック別の説明会や保護者向け説明会を行っています。ご希望があれば再度説明に伺います。

（９）学園構想の進め方について

◆参加者 G

・小山町では道路拡幅で歴史的な環境が壊され、学校の景観も殺風景になりました。これは教育委員会だけでなく、小山町にも責任があると思います。

・学園構想の学校デザインについて説明がなく、不信感を抱いています。30年後は分からないと言われましたが、今の段階での方向性を示すべきではないでしょうか。

・豊丘小学校に『啐啄同時』という掛け軸がかかっています。良い学校を作ろうということで、住民と教育委員会の気持ちが通じ合って作っていくと言う意味だと思います。

・豊丘小学校のプール問題でも誠意ある説明はなく、そのような姿勢では新しい学校を作ると言われても納得できません。

・大事なのは学園構想の未来設計図や財務計画、デザインはどうなっているのか。今年に決めなければならないのか。来年にしてもよいのではないか。もっとしっかり未来像を描くべきです。教育行政は地域住民の願いに基づくべきです。小山小学校 100 年の歴史を大切にしてほしい。

◇市教委

・学校と地域がともに歩んできた歴史を語っていただき、ありがたく思います。毎朝子どもの安全を見守ってくださる方がいて、そこに文化が育まれています。文化は人が作るものだと感じています。また、須坂には歴史ある文化活動もあります。文化とは昔を残すだけでなく、その時代の求めに応じて変わっていくものです。文化や教育の姿は時代とともに変化します。100 年先の姿を見通すことはできません。学園構想も 20 年先には変わるかもしれません。私たちはまず 5 年程度のスパンで方向性を示し、その後も地域や保護者とともに学校のあり方を考えていきます。

・教育カリキュラムづくりには 2 年ほどかかり、設計や工事を含めれば 5~6 年でようやく形になります。できるだけ早く新しい環境で学べるようにと計画しています。

◆参加者 G

・1 年伸ばすと子どもは待てないってことではないと思います。本当に住民と学校を作りたいのなら、住民と心と手を結び合えるような形での策定をお願いしたい。そのためには 1 年伸ばすことはなんら教育委員会にとっても損失ではない。真剣に住民と話し合うということがこの構想を進めるために、重要なことだと思うので是非急がないでいただき

たい。決してこの構想を賛成反対ではなくて、決めるならばもう少し時間をかけてほしい。

◇市教委

・説明会等の要望があれば区長会などを通してお願いします。ご意見ありがとうございました。

閉会